

●季刊誌「環境施設」で市橋理事が寄稿（2021-3-15）

季刊誌「環境施設」第163号2021年3月号で、当協会市橋理事が短期連載として「地球温暖化と大気中への二酸化炭素排出問題に関する一考察」-「パリ協定」を考える(第二報)を寄稿しています。

会員の方は抜刷りを会員専用HPから見る事が出来ます。第162号第一報と合わせてご一読ください。

REPA 図書館、発刊元の公共投資ジャーナル社HPの「環境施設」もご参照ください。

<http://www.kt-j.jp/004mokuji.html>

●油菜のさと環境フォーラム第三回で佐藤茂夫理事記念講演（2021-3-26）

3月21日(日)に南相馬市で開催された、油菜のさと環境フォーラム第三回で、当協会佐藤茂夫理事が記念講演「里山資本主義による地域づくりの20年～ヒト・モノ・カネの地域循環～」をおこないました。



この「菜の花プロジェクト」では、約100ヘクタールの農地から約320トンの菜種を収穫し、自前の搾油所で菜種油を製造しており、今回のフォーラムでは、搾油所で発生する油粕をメタン発酵処理することによってクリーンエネルギー(バイオガス)を回収するための実験装置が完成し、その見学会も開催されました。

完成したメタン発酵装置は、酸発酵槽とメタン発酵槽を分離した形態になっており、両槽とも容量は500リットルです。固液分離装置を付設して、消化液から放射性セシウムを除去した後安全に農地還元できるようにしています。こうした手作り装置の運転や改良について、当協会との情報交換や技術協力もできそうで、今後が楽しみです。

●霊山春のつどい（2021-3-31）

震災10年で私たちREPAの福島県伊達市霊山での活動は10年になります。新型コロナの影響で例年の様に現地での春のつどいは難しく、今回はオンラインで実施いたしました。

日時:2021年3月27日(土)13時30分より15時程度まで

挨拶と話題提供は、尾園 REPA 代表、大沼霊山プロジェクト代表から、「霊山プロジェクト 10 年の歩み」の説明と、地元が抱えている課題、今後の展開について講演をおこないました。

次に野池達也先生が、故篠田事務局長の思い出を含め、霊山プロジェクトの素晴らしい活動を振返られました。大沼光子様からは 3 年目を迎えた、ほまじのわ の活動について、初年度より出荷数量が倍増したこと、地元の食材をどのように活かすかの苦心談(楽しい)などの紹介がありました。

佐藤茂夫理事からは、埼玉県宮代からの現場中継で、ご支援を頂いている蛭田様(蛭田農場代表)を参画戴いて、蛭田様から不耕起栽培・無農薬農業の紹介、佐藤理事より宮代プロジェクト最近の活動、メタン発酵装置の仕上がり状況の説明と、今後の計画の紹介がありました。



地元の食材を活かした心のこもった昼食



全員マスク着用で説明者以外は無言のオンライン